

(2)その他、特筆すべき教育・研究・診療・社会貢献活動等への取組と成果、世界的位置付け(ISI citation など)など。* ISI データのない場合は、可能であればいろいろな指標を使って国内的位置づけを示す。

分野	取組と成果、世界的位置づけ	18年度の状況
特筆すべき教育活動	<ol style="list-style-type: none"> 17年度に魅力ある大学院教育イニシアティブ「言語研究者・言語教育者養成プログラム」が採択され、独創的で実践的な教育活動を実施している。 21世紀 COE プログラムでは、大学院生の国際発進力を向上させるために、ワークショップでの報告・質疑応答はすべて英語で行うこととし、そのための英語授業も行っている。 18年度発足の国際高等研究教育院言語・人間・社会システム領域基盤に21世紀 COE プログラムに関連する2科目を提供した。 	<ol style="list-style-type: none"> 大学院 GP の教育活動を継続し、19年度に新規の応募をする準備を進めている。
特筆すべき研究活動	<ol style="list-style-type: none"> 15年度に21世紀 COE プログラム「社会階層と不平等研究教育拠点の形成」が採択され、17年度に行われた中間評価においても A 評価を受けた。同プログラムではとくに研究成果の国際発信に努力しており、国際ワークショップ・シンポジウムの開催、英文叢書の刊行(16年度1冊、17年度1冊、18年度3冊)に力を入れている。 「若手研究者萌芽研究支援プログラム」に採択された2つの研究を中心に、若手研究者のネットワークが形成され、活発な活動を行っている。 研究科長裁量経費を「東北文化研究室」「方言研究センター」「歴史資源アーカイブ」等の共同プロジェクトに重点的に配分し、支援している。 『大学ランキング2007年版』(朝日新聞社刊)によれば、東北大学の人文社会科学分野における ISI 論文引用度指数(12~16年度)は国内第1位である。ここには、文学研究科教員分も数多く含まれていると思われる。 	<ol style="list-style-type: none"> ポスト21世紀 COE プログラムについても、19年度に人文科学、20年度に社会科学(継続)で応募するための準備を進めている。 平成19年度の応募に向けて準備を進めている。
特筆すべき社会貢献活動	<ol style="list-style-type: none"> 「みやぎ県民大学」「有備館講座」「市民オープンキャンパス(紅葉の賀)」あるいは高校への出前授業など、教員による多くの講演活動を実施している。 研究成果をより広い範囲に伝えるために、上記の講演をもとに17年度からは出版活動も開始した。17年度には『東北 その歴史と文化を探る』(東北大学出版会)を刊行し高い評価を得た。 放送大学への協力も重要な社会貢献活動と位置づけている。本研究科の教員は現在4科目を担当しているが、これを更に増やして行くよう研究科としても奨励している。 新しい形式の広報誌『考えるということ』を創刊した。印刷部数5000部のうち1300部を仙台市内の書店等を通じて一般市民に無料配布した。 	<ol style="list-style-type: none"> 講座を統一的な方針の下で実施する体制づくりを検討している。 『世界の食と文化』(東北大学出版会)と『考えること』を刊行した。 21世紀 COE プログラムの成果を放送大学に科目「社会階層と不平等」として提供することが決定し、準備を進めている(20年度開始)。 新しい広報誌『考えるということ』を創刊。